

豚コレラウイルス分離株の豚への感染試験について

農研機構動物衛生研究部門において、先般、岐阜県で発生した豚コレラ発生農場の飼養豚から分離されたウイルス株を用いた感染実験が実施されました。

◆ 分離された豚コレラウイルス株を感染させた場合の臨床症状について

- 筋肉内接種したところ、40℃を超える発熱と白血球減少*を示し、試験終了日（15日後）まで生残しました（強毒株接種豚では、接種5日後には下痢、起立困難、神経症状を示し瀕死状態に陥りました）。
- 経口接種したところ、同様に 40℃を超える発熱と白血球減少*を示し、試験終了日（14日後）まで生残しました。
- 接種した豚と同房で飼育させた同居豚であっても感染し、同様に 40℃を超える発熱と白血球減少*を示しました。

※ 白血球数が 10,000 個/ μ L 以下

◆ 分離された豚コレラウイルス株を感染させた場合のウイルス遺伝子・抗体の検出時期について

- 接種豚および同居豚の唾液、鼻汁および糞便からは、感染後最低2週間、ウイルス遺伝子が検出されました。
（感染後最低2週間は、ウイルスを排泄している可能性があるということ）
- 血中の抗体は、感染後2週間以降に検出されることが明らかになりました。
（感染後2週間以上経過しないと抗体検査に反応しないということ）

◆ 分離された豚コレラウイルス株の病原性について

- 感染後、臨床症状を引き起こすものの、その病原性は、強毒株よりも低いことが確認されました。

◆ 分離された豚コレラウイルス株を感染させた豚の写真

（農研機構 平成30年11月16日 プレスリリースから）



飼養衛生管理基準
の再確認と徹底を
お願いします！

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL 0463-58-0152 FAX 0463-58-5679